

令和8年度 浜松工業高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和8年6月19日(木) 午後1:45から3:45

2 場所 浜松工業高校 大会議室

3 参加者

役職	氏名	備考
会長	吉澤 勝治	静岡大学教育学部教職支援室 特任教授
副会長	波多 信広	プラス浜北 代表
委員	豊田 真紀	
委員	名倉 慎太郎	株式会社 日本設計工業 代表取締役
委員	鈴木 典男	
校長	白須 賢一	
副校長	小林 礼治	
全日制 教頭	秋月 竜也	
定時制 教頭	藤田 陽子	
事務長	池谷 悦男	
教諭	櫻井 大介	全日制 教務主任
教諭	佐原 康之	定時制 教務主任
教諭	馬淵 泰之	定時制 3学年主任 工業科主任

4 内容 司会：副校長（協議の進行は会長）

(1) 学校運営協議会委員委嘱

(2) 校長挨拶

- ・ 高校教育改革先導拠点校（N-E.X.T.ハイスクール）として本校が採択された。
- ・ 従来の「ものづくり」重視から、イノベーション、スタートアップ人材、アントレプレナーシップ、アドバンスドエッセンシャルワーカー等の育成へ拡張が必要。
- ・ 人口減少に伴う人員確保難を想定し、少人数でも部署を運営できる独自性・創造性・先見性の育成が重要。

(3) 自己紹介

(4) 校内見学

(5) 会長及び副会長の選出

- ・ 会長に吉澤勝治委員、副会長に波多信広委員 … 全会一致で承認

(6) 学校運営協議会について（副校長）

- ・ 静岡県は令和7年度までに全県立高校へ学校運営協議会を設置。従来の評議員制度と異なり委員に権限・責任を付与（特別職地方公務員の任務）。主な役割は基本方針承認、意見申出、学校関係者評価。地域・産業界のニーズを反映し「地域とともにある学校」を目指す方針を共有。

(7) 令和7年度学校自己評価・学校関係者評価について

(全日制：副校長)

A 評価：SSH 第3期の学科横断共同研究の進展、山崎賞受賞、就職内定率100%、進学対応の充実、挨拶定着(肯定90%超)、広報(HP平均訪問800回超)、学校給食の満足度が高い。

B 評価：図書館活性化が必要(貸出冊数未達、文献検索指導の強化)、交通安全指導に課題(年間24件事故、ヘルメット啓発継続)、新校舎移転に伴う避難経路周知と先進的防災訓練の必要性、労働災害3件(働き方改革・情報共有・再発防止)。

令和7年度の成果を今年度の教育活動へ反映させ、発展を目指す。

(定時制：教頭)

A 評価：就労支援(浜松商工会議所連携のマッチング事業：企業説明→インターン→アルバイト→就労の連続支援、25社参加)、挨拶励行・褒める声かけて自己肯定感向上、不登校・発達障害・経済的困難等への個別支援、昨年度から通級指導を開始、改善が確認され継続。

関係者評価：マッチング事業・企業説明会が高評価。出席目標未達・未就労生徒への支援強化が課題。1年生からの参加拡大。

B 評価：交通安全：自動車・バイク通学に伴う事故発生を受け安全教育強化、ヘルメット着用・ルール・マナー徹底、就労支援と個別支援を継続・拡充し、出席・安全面の課題に対応する必要あり。

セーフティネットでありつつ積極的選択肢となる定時制づくりを推進したい。

(8) 令和8年度学校経営計画について

(校長)

・スクールミッション・ポリシーを提示。「予測困難で変化が激しい」という時代の傾向は加速中。Society 5.0を見据え、教員の最新動向追従と指導力維持が不可欠。最先端科学技術者育成の目標に向け、学習環境・指導体制を適合させる方針である。

(副校長)

・SSH第Ⅲ期3年目の中間評価に向けて準備中。静岡県公立で唯一のSSH指定校として先導的役割。「N-E.X.T ハイスクール」に採択され、実業系の新モデル構築に挑戦する。また、基本的な生活習慣の確立と安全安心な学校づくりを推進していく。

… 全会一致で承認

(9) 学校の近況・部活動の状況について

(全日制：教頭)

・1学期行事：企業見学、2年生インターン(建築科は終了)、理数工学科の東大見学、教育実習生受入。SSH運営指導委員会で生成AI活用と基礎学力について大学教員と意見交換。

・部活動：アーチェリー部・情報処理部が全国大会、陸上・卓球などが東海大会へ。

(定時制：教頭)

・県内で定時制を持つ専門高校は3校。技術習得を目指す生徒へ広い知識を提供。マッチング事業を展開し、2～4年生に加え、1年生の一部が1学期から1月にインターンに挑戦。少数グループの手厚い

実習が可能、外国籍生徒への通訳支援、AIドリルで学び直しを実施。

・セーフティネットでありつつ積極的選択肢となる定時制づくりを推進。

・部活動：陸上・バドミントン・ソフトテニスが全国・東海大会へ。

#### (10) 意見交換

・(委員からの意見) 手書き製図を重視する授業方針を支持する。CADは道具であり、企業でも習得可能。学生期は原理原則・バランス感覚で描ける力の習得が重要。企業見学の取組を評価する。進路観が難関大・大企業志向一辺倒にならぬ配慮を要請。

・(委員からの質問) 令和7年度の成果目標として「生徒の年間平均貸出冊数を2冊以上」とした理由は何か。(読書量の質的把握と貸出数の関係への疑問)

・(学校側の回答) 学校図書館離れの中で来館と貸出につなげるきっかけづくりとして該当の成果目標を掲げる。来館促進の入口指標として採用する。

・(委員からの質問) SSHとは端的に言うと何か。

・(学校側の回答) SSHは理系分野で主体的・創造的な学習を促す国の指定事業であり、指定に伴い予算が配分される。

・(委員からの質問) マイスターハイスクールとの違いは何か。

・(学校側の回答) SSHは大学等との研究連携色が強く、マイスターハイスクールは企業・地域産業連携に重心がある。

・(委員からの質問) SSHに参加する生徒はどのように選抜するのか。

・(学校側の回答) 浜工のSSH活動は全員参加型で、テーマ設定やグループ編成は柔軟に行われる。

・(委員からの質問) 山崎賞などは、SSH独自の賞か。

・(学校側の回答) 研究賞(山崎賞等)への応募はSSHと直接関係せず一般の科学・専門高校向けコンペへの挑戦として位置づけ。

・(委員からの質問) 新校舎(新本館)建設の状況と今後の計画は。

・(学校側の回答) 南棟南側で新本館建設中。予定通りなら夏休み期間の7月20日以降に引き渡し。2学期から新本館で教育活動開始予定。既存本館の解体は来年1～2月に開始の見込み(囲い設置含む)。渡り廊下は残置し、交流スペース等整備。関連工事完了は令和10年度(2028年度)予定。

・(委員からの意見) 学校設備の老朽化が進んでおり(昨年度は野球部照明のLED化等の改善があった)、引き続き設備更新の検討を行っていくべき。

・(委員からの質問) 高校再編はどのような状況か。

・(学校側の回答) 地域協議会は昨年度終了。西遠地区で18校を2040年に13校へ再編の大枠決定(具体対象は未定)。私学無償化の影響で私学単願増加。